

企業倫理性と社会活動

クロダイインターナショナルコンサルティング

黒田 毅

企業経営における健全性や効率性は、企業倫理性がそれら現実を与えるという、意見を私において提示するものである。これらは企業経営の透明化や健全性が優れた企業活動を可能とできると考えるものである。

これらは企業経営が、その優れた環境を与えることができ、それら環境は先端性や独自性など優れた企業活動を提供できるのである。

フレックスな企業の参加は、企業基盤を要求するものである。これらにおいても社員意識や企業経営の健全性は企業経営の基盤としてはるかに優れるのである。

また社会活動における企業基盤が、社会との共生という新しい現実を可能とできるのである。

これらは必ず経営者の意識において与えられる現実なのである。企業のグローバル化はグローバル基準の受け入れとともに、西洋社会における倫理的要求を他方において自己に要求するものである。

これらは絶対的な企業の健全性が優れた企業経営を可能とできるということなのである。また社員における共有の倫理的価値観は、より優れた企業構築を実現できるのである。

これら企業基盤が時代性における飛躍を自己ビジョンとして有することで、企業がその新たな可能性を現実化することが出来るのである。

これらは、企業の社会活動が、社会との共生という新しい現実を提案できるものである。企業が社会市民として社会へ参加することは、企業における新しい自己現実を構築できるのである。

企業風土の構築は、新しい企業現実の創造を与えるものであり、これら新たな企業におけるコンセンサスは、変化という現実への正しい企業判断であると考ええる。

